

## 【富山国保病院事務長より詳細の説明】

令和2年4月6日(月)の午後に千葉県から、県内医療機関に入院中の新型コロナウイルス感染症患者で、軽症または無症状の患者を転院(現在入院している病院からほかの病院へ移ること)による受け入れの要請がありました。受け入れ時期につきましては、4月8日(水)本日から、順次受け入れを行ってまいります。当面の受け入れ人数ですが、10名程度を予定しております。ただ、これにつきましては流動的であり最終的な人数ではありません。受け入れる患者の容体ですが、軽症または無症状、回復期にある患者で、PCR検査で陰転化できない(陰性が確認できない)患者となります。

その他の対応としましては、外来、その他検査、人間ドッグを一時休止します。外来を一時休止するにあたり、当院のかかりつけの患者さんに多大なる影響がでるなかで、定期処方薬(普段もらっている薬)に関しては、電話再診(医師と直接電話で再診)を行い、処方を継続していきます。また、症状が変わったなどで病院にかかりたいという方に対しては、積極的に地域の医師会等に働きかけを行い、当院から紹介状を書いて、他の病院を受診していただくという体制をとりたいと考えています。

## 【記者会見のなかで出た質問と答え】

Q. 富山国保病院は県から感染症指定病院に指定されていますか。

A. 感染症指定病院に指定されています。

Q. 安房地域には富山国保病院以外に感染症指定病院はありますか。

A. 安房地域の医療圏につきましては富山国保病院のみとなります。

Q. 富山国保病院への要請ですが、千葉県内の他地域の感染症指定病院にも同時に何か所か要請があって、そのうちの一か所として富山国保病院にも要請があったものなのか、転院先として「まず」最初に富山国保病院に要請があったものなのか伺っていますか。

A. 現状では確認がとれていませんが、他の感染症指定病院にも入院患者がいるという情報は伺っています。

Q. 安房地域医療センターと医療連携協定を結ばれていますけれども、安房地域医療センターとの連携で今回にか特筆すべき話がありますか？

A. 4月6日(月)時点で富山国保病院に22名の入院患者おり、感染リスクを回避するために転院または退院をしていただく調整を行いました。その受け入れ先病院として安房地域医療センターに協力をいただいています。また、転院先には鋸南国保病院、鴨川市立国保病院などにも協力をいただいています。

Q. 22名の入院患者さん全員が転院または退院されるということですか。

A. 本日(4月8日)の午前中で全員が転院・退院となります。

Q. 感染症指定病院ということですが、今回のコロナウイルス感染症患者を受け入れる前には、感染症の患者を受け入れるための病床数はいくつありましたか。また、10人程度の受け入れということは、千葉県からの要請を受けて病床数を増やしたのでしょうか？

A. 当院の感染症患者を受け入れる陰圧室(感染症にかかった人への対応として、病院が確保している部屋)の設備のある病床は4床あります。しかし、今回は4床を超える患者の受け入れが想定されますので「一般病床」で受け入れを行います。また、その受け入れに関しては亀田総合病院、安房地域医療センターの感染症専門医また感染症専門ナースの指導を受け、院内感染などが起きないように対策をしたうえで受け入れる形となっています。

Q. 一般病床で6床確保したということですか。

A. 今回の患者を受け入れるために、一般病床については24床を確保しました。現状では、感染症の陰圧室を使用する予定はございません。

【市長より補足】

富山国保病院は感染症の病床4床とそれ以外に一般病床が47床あります。今回、感染された方々を受け入れることについては、一般に入院されているすべての方に転院(退院)をしていただいて、つまり病院をカラにして、コロナウイルス感染症の患者さんを受け入れて対策を講じていこうとしたわけです。47床のうち24床というのは、現在のスタッフの人員やマンパワーなど色んなことを含めて、24床が限度であろうということです。

Q. 24床に対して医療スタッフの体制はどうなっていますか。

A. 常勤医師が3名、看護師23名、薬剤師1名、検査技師1名、放射線技師1名、管理栄養士2名、理学療法士2名、その他職員19名、計52名の体制です。

Q. 外部からくる医療スタッフは何人ですか？

A. 現在、外部からの補充は予定しておりません。従来の富山国保病院のスタッフで対応します。ただ、医師の当直につきましては、通常から外部に依頼していますのでそれは継続してまいります。

Q. 軽症者と症状のない人の分ける基準はどこにあるのでしょうか。

A. 明確な基準は示されていませんが、発熱等がある方、せき等の症状がある方については軽症とします。

Q. 病院内では、軽症と症状のない人は分けますか？

A. 病床は24床用意してありますが、入院患者の受け入れについては、まず個室での管理を行っていかうと考えています。ただ、患者の数が多くなっていく場合には、複数の方の一つの部屋に入らせていただくこともやむを得ないと考えています。

※部屋の状況は、個室、2人部屋及び4人部屋です。

Q. 市長にお聞きします。千葉県から要請があったときに率直どう思われましたか？また、患者を受け入れるということについてどう捉えられていますか。

A. 国保病院の院長とは、以前から新型コロナウイルス感染症対策について話し合いをしていました。その中で、「公立病院として地域の方々の命を守る。新型コロナウイルス感染症の対策については、公立病院が頑張っていかなければならない。」ということで考え方は一致していました。また、過日安房地域の病院長さん、行政（3市1町）、保健所なども入って、安房地域の医療供給体制をどうしていったらいいかという話し合いがもたれました。その中で一致した意見としては、富山国保病院に感染症の受け入れ病院として頑張ってもらいたいという意見が多数出されました。それに向けて、感染者の方々を受け入れられる体制を作っていくと、話し合いをずっと続けてきました。そのような状況のなかで千葉県のほうから受け入れの要請がきましたので、ここで思い切ってやろうということで踏み切ったわけです。今回については県内の他地域でも大変な状況にあるということで、国保病院としてできることがあれば受け入れることとなりました。

Q. 今後病床数の拡大をする可能性がありますか。

A. 安房地域での患者の発生状況等を確認しながら考えることになると思いますが、現状のスタッフでは24床が限度という状況です。施設的にはあと12床程度であれば拡大することは可能ですが、スタッフの数、また不足している防護服や器具の供給体制を見極めていかなければいけません。

Q. 近隣にお住まいの方がいるかと思いますが、市民の皆さんにはどういう形で広報していきますか。

A. 本日、これから旧富山町の区長さんに説明をさせていただきます。その後、一般住民の方々にも丁寧な説明をしていく必要があると考えています。

Q. 住民の方で全面的に同意するという方たちばかりではないと思いますが、そこにはどういった説明をしていきますか。

A. 不安をお持ちになる方もいらっしゃると思います。今回受け入れる患者に関しては、軽症または回復期にある方々なので、感染症の専門の先生からは、接触感染・飛沫感染の防止対策を講ずれば、他への感染の心配はないと指導いただいています。病院の中でそ

ういった管理をしっかりとしていただければ、住民の方々にご迷惑をかけるようなことがないことを、丁寧にご説明させていただくことになるかと思えます。

Q. 現在、南房総市在住の方でコロナウイルス感染症の患者が1名ということで、県北部などに比べれば非常に恵まれている状況ですが、今後、住民の方に患者が出た場合に病床に余力は残しておくのでしょうか。

A. 千葉県から要請をいただいたときに、県内の他地域で困っている方を受け入れることについては頑張りたいと伝えました。しかし、安房地域で発生した時のために病床数は確保しておき、他地域の方で満床にするということは考えていません。

Q. 受け入れるのは県内の患者だけですか。

A. 県内の患者だけです。地域は県内全域となります。

Q. 退院の基準はありますか。

A. 国の基準で決まっています。発熱、せき等の症状がなくなった状態で24時間後にPCR検査を行い陰性が確認された場合、再度24時間後にPCR検査を行い、2回連続で陰性が確認された場合に退院ができます。また、検査につきましては安房保健所に依頼する形となっています。

Q. 入院される患者の特性（男女・年齢など）は分かりますか。

A. 県からはそれらのものは示されていません

Q. 県からの財政的な援助の話はありましたか。

A. その点について具体的な話し合いはできていません。今の緊急事態に照らして、やることはどんどんやっっていこうと考えています。

Q. 病院の一日の利用者数はどのくらいでしょうか。

A. 平均して、入院患者が35名／1日、外来患者が60名／1日です。